

久野康成の

「私なら、こうする！」

非常識な実践経営アドバイス



第20回「能力開発に悩んでいる人のために有益な勉強法は？」

【プロフィール】  
久野康成(くの・やすなり)  
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウズ)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。

Question

最近、書店に行くとさまざまな勉強法の本を多く見かけるようになりました。関心があったので、いくつかの本を手にとってみると、どれを見ても非常に優秀な人が書いているため、とても自分では真似できないように思います。著者の方は、勉強法が優れていて優秀になったというより、もともとすぐれた才能があったから勉強ができたように思えて仕方ありません。自分のような普通の人間でも活用できる取り組みやすい勉強法はないのでしょうか？

(東京都 会社員 25歳)

Answer

ウサギに勝ったカメは、  
実は大変な戦略家だった

確かに、勉強法の本を書かれている方は、超一流の大学を卒業した人ばかりですね。でも、才能がなくても、少しは優秀になれる方法があります。私はこの方法を必死に考えてきました。なぜなら、私は高校に入ったとき、最初の試験で400名中110位でした。これは何かの間

違いだと思い、次の中間テストは必死に勉強しました。その結果は、132位。このとき、自分には能力がないということを思い知らされました。能力に欠ける人間は、ともに勉強していても絶対に勝てないと思いました。さらに、大学受験も2度失敗し、再起を公認会計士試験にかきました。この過程で分かったことは、「努力」より「戦略性」が重要だということです。

イソップのウサギとカメの寓話では、カメがウサギに勝ちます。カメが努力家だから勝ったのだとされていますが、世の中には、努力をしても一向に報われない人がたくさんいます。努力だけではダメなのです。

実は、カメは戦略的努力家だったのです。もし、カメとウサギが100メートル走をしたら、ウサギは、絶対に勝ったことでしょう。短距離走では、昼寝をする暇などありません。能力格差が、そのまま結果につながるのです。「向こうのお山の麓まで」の競争を提案したのはカメです。カメは、能力のある人間が、往々にして怠惰であることを知っていたのでしょう。

結果＝能力×努力×戦略になると思います。戦略は、時間軸が長いほど、バリエーションが広がります。時間軸が短かければ、能力格差で負けてしまいます。従って能力に劣る人は、努力と戦略が反映しやすい「長期戦」に持ち込むことが重要となるので

す。

効果的な勉強法は、アウトプットとインプットの関係を考えてなくてはなりません。勉強の結果は、自分が覚えていたり、表現できるアウトプットで測定されます。このアウトプットを増やす方法は、2つしかありません。ひとつ目は、インプット量を増やすことです。つまり、努力し、勉強時間を増やすのです。2つ目は、インプットに対するアウトプット量を高めることです。つまり、生産性を高めるのです。能力の高い人は、記憶力や理解力が高く、もともと生産性が高いのが特徴です。能力の低い人は、戦略的に生産性を高めなくてはならないのです。

### 弱点強化の「一点突破法」と「有言実行」が効果的

私は、この方法を「ランチェスター勉強法」と呼んでいます。ランチェスター戦略とは、弱者が強者に勝つための戦略方法です。これを勉強法に応用したの

です。ランチェスター勉強法を一言でいえば、「一点突破法」といえます。

人間は、忘れる動物です。しかし、的を絞るこみ、時間的資源を集中させれば、得意分野に変えることができます。人間の記憶には、短期記憶と長期記憶があり、長期記憶をするためには、繰り返しと深い理解が必要になります。そのためにも、集中が重要なのです。

私は高校2年の時、化学が全くできませんでした。これは、まづいと思ひ、他の科目を一切勉強せず、化学だけ3週間集中的に勉強しました。その結果、一気に得意科目になり、その後は、全く勉強しなくても非常に良い点が取れるようになりました。調子に乗り、生物も得意になりましたが、これらの科目は、あまり大

学受験に関係ない科目です。最も重要な科目である英語や数学に集中すべきでした。戦略性が欠けていたので。

この失敗を生かすため、会計

士の受験時代は、最も重要な科目である簿記論に集中しました。会計士試験は7教科ありましたが、最も時間がかかる1科目に時間を集中させました。1科目を得意にさせれば、同じ要領で他の科目も得意になります。模擬試験では、2千人中16位まで成績を上げることができました。

また、私は3年単位で新たなことを取り組むようにしています。37歳でピアノを独学で始め、1年半かけてリストのラカンパネラが弾けるようになりました。楽譜はいまだに読めませんが、何度も繰り返し返せば、暗譜もできるのです。

現在は、英語の勉強に集中しています。今年中にTOEIC 900点以上の成績を上げることを社員に「宣言」しています。有言実行で自分自身を追い込むことも効果的ですね。

(このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)